

声

今年度の入谷打囃子は12月1日の「子どもたちの郷土芸能発表会」で終了の形となりました。これも7名の講師の皆さんに支えていただいた成果であると感謝いたします。以下は講師の皆さんからのお言葉を一部紹介します。

- 打囃子としての祭りが上手に表現できたと感じました。
  - 児童の目標に向かう姿勢がよかったです。
  - 本番に強い入谷の子供たちを見せてもらいました。
  - 子供たちと活動をすることことができ、元気・力をいただきました。

上記のほかにも「学芸会の発表をメインにした日程が組めれば…」「新しい風が入れば…」等の感想があり、これから課題をいただきました。5ヶ月に渡る指導、ありがとうございました。

アンケートへのご協力  
ありがとうございました。

学校保健委員会前、5校時に行われた学習参観には保護者の皆様に多数おいでいただきありがとうございました。参観の折に記入をお願いしていたアンケートの一部を紹介いたします。

- 今日の講師の先生のお話は、ためになりました。ありがとうございました。
  - 入谷小は学年問わず、皆が楽しく過ごしていると思うので、とても安心しています。行事も活動もいいなと思います。
  - 子供たちのはきはきした発表を見て成長を感じられました。

以上の記入がありました。  
これからもご協力、よろしく  
お願ひします。



## 感じる地域との絆

12月1日(日)、ベイサイドアリーナ文化交流ホールを会場に「子どもたちの郷土芸能発表会」が開催されました。入谷小学校では4年生から6年生までの児童が参加し、入谷打囃子を披露しました。上に掲載された写真は演技後に指導をしていただいた講師の方々との集合写真です。6月13日の学習会開講式を含め11回の練習を積んできました。保護者の方々には学芸会で披露し、この日は町民の方々に見ていただきました。7名の講師の方の前で今年度の演技を終え、無事やり切った顔の子供たちです。子供たちにとつて打囃子は入谷地区の大きな活動の一つです。学芸会を終え、振り返りを行う教室での時間にも、打囃子演技の「ビデオを見たい。」「出来が気になる。」と言つていました。入谷打囃子に対する子供たちの思いを感じる場面でした。打囃子の活動とともに地域との絆を子供たちは感じているのです。



笠原政美 様

阿部公喜 様

尾形菊郎 様

## 地域学校協働本部とは？

前号では「地域学校協働活動」について掲載しました。今号では、その活動を推進する体制について掲載します。

地域学校協働本部とは、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制として、平成27年の中央教育審議会の答申で提言されたものです。

連携の体制は様々な形態があり得るため、地域学校協働本部について法律上の規定はありませんが、改正後の社会教育法の第5条及び第6条の規定では、教育委員会が地域学校協働活動の機会を提供するに当たって、地域住民等と学校の連携協力体制の整備が求められており、地域学校協働本部の整備のための支援もその取組の一つです。

取組の一つです。地域学校協働本部の整備にあたっては、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」を推進し、「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことを前提とした上で、

1. コーディネート機能
  2. 多様な活動  
(より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施)
  3. 繼続的な活動 (地域学校協働活動の継続的・安定的実施)  
の3要素を必須とすることが重要です